

「障がい者支援・えべつ21プラン」(案)に係る 意見公募の結果について

(意見公募期間：令和5年12月25日から令和6年1月23日まで)

令和6年2月

江別市健康福祉部障がい福祉課障がい福祉係

江別市健康福祉部子育て支援室子育て支援課子ども家庭係

意見公募の結果概要

■意見の募集結果

募集期間	令和5年12月25日（月）から令和6年1月23日（火）まで
提出者数	5名
提出件数	6件

■意見の反映状況

区分	意見の反映状況	件数
A	意見を受けて案に反映したもの	0
B	案に意見の趣旨が既に盛り込まれているものと考えられるもの	3
C	案に反映していないが、計画の展開にあたって参考等とするもの	1
D	案に取り入れなかったもの	0
E	その他の意見	2
	合 計	6

■寄せられたご意見については、できるだけ正確に表すため、個人を特定できる箇所や本計画案に関するご意見以外の記述を除き、可能な限り原文のとおり掲載しております。

○「障がい者支援・えべつ21プラン」(案)について

連番	意見の内容	市の考え方	区分
1	<p>2024年秋から紙の保険証が廃止され、マイナ保険証に統一されるといった動態的な国の政策により、障がいをお持ちの方で困惑されているといった方もおられるでしょう。私も睡眠障害で通院しており、現在自立支援医療受給者証を使って医療を受けさせていただいております。かつて福田康夫政権のとき、国は「自立と共生」というスローガンのもと社会福祉政策を進めてきました。我が家は江別市に移り住む前は美唄市に住んでいました。美唄は福祉のまちとして有名な自治体です。諸制度に絡む広報活動も含め、どうか自治体と患者が共に生きる姿勢に積極的な市政・市制であってほしいです。</p>	<p>『第5章 計画の基本的な考え方』に記載のとおり、本計画の基本理念は「障がいのある方の自立を地域で支える共生社会の形成」であり、全ての市民が障がいのあるなしに関わらず、お互いの人格と個性を尊重し合いながら、住み慣れた地域で共生できるまちづくりを目指しております。</p> <p>この基本理念に基づき、地域で障がいのある方を支えていくためには何が必要なのかを考え、様々な相談や障害福祉サービス等につながるよう、広報などによる情報提供の充実を図るとともに障がいのある方の声をもとに暮らしやすさの向上に努めていきます。</p>	B
2	<p>僕は精神障害者で手帳があり、近所から自分が悪く言われていると思った時期もあるけど自分の障害を明かしていました。そしたら誰一人障害を患い、障害福祉サービスのお世話になっていることを悪く言う人がいなかったです。</p> <p>また、以前アルバイトをしていた会社では、精神障害への理解がなかった。職探しをするならば、障害者雇用を考えているが、精神障害への理解がもっと進んでほしい。</p>	<p>『第4章 障がい福祉の課題』に記載のとおり、障がいのある方の個性と人格が尊重され、市民が障がいへの理解を深め、障がいを理由とした差別等のない環境づくりが重要であると認識しています。</p> <p>また、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」(障害者差別解消法)の改正法が令和6年4月から施行されることに基づき、市といたしましても障がい者差別の解消をはじめ、市民の理解促進等への取組を推進していきます。</p>	B

連番	意見の内容	市の考え方	区分
3	<p>先日、子供の自立支援の更新手続きで障がい福祉課に行き、たまたまこのプランを目にしました。具体的な制度や支援など、よく考えられていると感じました。只、一般の方が目にする事はないだろうと思いました。</p> <p>周りの人に障がいを知って貰う事、手助けできる制度等がたくさんある事、困っている本人、家族が知る事が大事だと感じました。</p> <p>私は札幌の家族会に所属していますが、そちらからの情報ばかりではなく、住んでいる江別から直接の情報が欲しいです。今は病気もわかり障がい者手帳を持っていますが、発症当時（16年前）、必死の思いで市の相談窓口、保健所に相談しましたが、親に寄り添ったお話はして貰えませんでした。やっとお話を聞いてくれたのは札幌でした。</p> <p>改善はしてきていると思いますが、相談のしやすさ、窓口へのいきやすさ、人数を増やして貰う事、又、スキルアップを望みます。又、委員会名簿の中に精神障がいの団体がない事に残念に思いました。</p>	<p>『第4章 障がい福祉の課題』に記載のとおり、本計画の策定における障がい福祉の課題として、相談支援体制を充実させていく必要があるとしており、『第6章 第7期障がい福祉計画及び第3期障がい児福祉計画』において、相談支援体制の充実・強化等について記載しているところです。</p> <p>障がいのある方やその家族が、身近にいつでも相談できる窓口が必要であること、また、わかりやすい情報提供が必要であることと認識しておりますので、専門的職員を配置するなどして相談窓口体制の充実を図り、人材育成に努めてまいります。</p> <p>なお、委員会名簿の中に精神障がい者団体の方がいない件につきましては、本計画の策定に当たり実施した団体ヒアリングに参加していただき、意見や要望を聞き取らせていただいたところです。次期計画の見直し（令和8年度を予定）の際には、よりよい計画とするために、委員構成について改めて検討させていただきます。</p>	B
4	<p>デジタルにまつわる話が全くないのだけれど？</p> <p>障がい者やALS患者などが働く、オリヒメについてはご存じだろうと思います。デジタル技術で世界を拡張する素晴らしい技術ですね。AIは2023年にchatGPTが3.5から4へと実用レベルになり、またロボット技術も急激に進歩しているようです。</p> <p>その中で、今回の資料にはデジタル技術によるサポートやチャレンジについて何の記述も有りませんでした。現場の障がい者やそのサポートの人たちが目の前の事に追われて、デジタル技術による恩恵を受けるチャンスを逃してる</p>	<p>本計画は、障害福祉サービスや児童通所支援の提供に関する具体的な見込量やサービスを確保するための方策を示すものでありますので、障がい分野におけるデジタル技術の活用に関する必要な取組や方針などについては、市の障がい者・障がい児施策の方向性を示す基本計画である『江別市障がい者福祉計画』（計画期間：令和3年度～令和8年度）の見直しの際に、記載することを想定しております。</p>	C

のではないのでしょうか。

市として計画を作るのであれば、最先端の AI やロボットの技術が障がい者へのどのような助けになるかを研究し、紹介し、出来れば体験させるための取り組みを入れるべきではないのでしょうか。

また、生活支援事業に手話や点字翻訳、要点筆記、朗読などが有るが、これらはすでにデジタルで対応が可能な得意分野です。ここに人的資源や費用をかける必要は徐々になくなります。市として事業のコントロールをする必要が有ると思います。

デジタルは人と違って冷たいとか、人と触れ合うことによる癒しが有るとか情緒的に優位性があるという人がいますが、それは過去の思い込みで今日現在の技術ではないでしょう。その為の研究は行われて日々進化しています。半年で変わる世界です。

障がい者を実験台にしろとは言いませんが、使えるものはどんどん試してみましょう。このような技術は、数年で人間よりも優秀で低コストになります。

言葉は悪いですが、2030年のシンギュラリティの後は、AI に比べたら人間全てが障がい者みたいなものかもしれませんよ。

連番	意見の内容	市の考え方	区分
5	<p>障がい者の方がより社会参加出来るよう、市の体育館、プールを利用する際、障がい者手帳の掲示で利用料を無料にしていきたいです。</p> <p>理由は、1. 運動することは障がい者の方の生きがいや健康維持につながるが、障がい者の方々の中には所得が低い方も多く、利用料が経済的負担になってしまうため。2. 基本目標8にスポーツ・レクリエーション・文化活動等・障がいのある方の社会参加の推進とあり、この施策が障がい者の方々の社会参加を推進出来ると考えたため。3. 札幌市、北広島市、恵庭市、千歳市、岩見沢市等、江別市の周辺の市ではすでにこの施策を取り入れており、江別市ではまだ取り入れられていない。そのため、取り入れることが出来れば、江別市の福祉サービスのさらなる向上につながり、障がい者の方々にとってより住みやすい街になると考えたため。</p>	<p>既に市が設置する体育館・プールの使用料については、江別市体育施設条例の規定により、身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳、療育手帳の交付を受けている方は無料として取り扱われております。</p>	E
6	<p>障害者の運賃割引について、精神障害者にもJRやバスに適用されるようにしてほしい。</p>	<p>JRの運賃割引については、精神障がい者にも適用されるよう、これまでも国会においても取り上げられており、国の考え方は、運賃割引は各運営事業者の判断によるものであるため、国としても精神障がい者に対して運賃割引を導入するよう各事業者に協力を求めているとのことであります。</p> <p>市といたしましても、精神障がい者にも運賃割引が適用されるよう、市内バス事業者に対して毎年、要望しているところであり、今後につきましても要望を継続してまいります。また、JRに関しては、国の動向を注視してまいります。</p>	E